

ソウゾウする力 大切に

岩日タイムズ

発行者
岩瀬日本大学
高等学校

飯山 粹衣

SDGsとデザイン オンライン中高生取材会

7月22日、パナソニック株式会社デザイン本部の臼井重雄さんと、株式会社乃村工藝社エグゼクティブクリエティブディレクターの平田裕二さんによる講演会

村工藝社エグゼクティブクリエティブディレクターの平田裕二さんによる講演会



Z o o mを利用したオンライン取材の様子（臼井さん）



乃村工藝社の平田さん

「ソウゾウするちから」ヒトのココロを思い、トキのあり方を考える」がオンラインで開催された。世界中が新型コロナウイルスにより混乱している今、未来をソウゾウ（想像、創造）すること、今後の日本や世界を大きく変えていくことができるという。

例えば「多くの人が、お皿と言われている浮かぶのは、白くて丸いお皿だろう。しかし、このお皿はコロナ禍により砕けて粉々になった。この使えなくなったお皿を赤いお皿にする

この困難を乗り越え、今後の社会で活躍できる人は何でもある人ではない。一芸に秀でている人だといふ。一芸に秀でるために、多くの事を経験し、自身を豊かにすること、大切だと考える。また、自分を見失わずに生きていく

方法については「人に生き方を決められてはいけない」「人のせいにしてはいけない」「選択に対して責任を持つ」の3つであると考えている。この3つを実行するためには多くの知識が必要だ。知識が十分ないと人の後ろを歩いていくことになるからだ。多くの知識を得るには、自分自身が豊かでないといけないと考える。不確実な未来だからこそ、心を外に向けワクワクするような

など全然違うものに変化させることが出来るのが、新しいタイプの考え方だ。しかし、使えなくなったお皿を接着剤で元に戻そうとするのは古いタイプの考え方だ」と平田さん。新しいタイプの考え方のように今までは違うお皿を自分で作ろうと思うと心がワクワクし、新しい経験をする事が出来る。この経験を経て自分自身が豊かになっていくだろう。



前日には受信テストを兼ねて自己紹介を行った

編集後記

私は、今回で2回目のオンライン取材会への参加になりました。普段だったから、お話を伺うことのできない人の話を聞くことができたので、とても良い経験になりました。みなさんも機会があったらぜひ参加してみてください。（飯山）

新しい経験を多くすること、自分自身を豊かにしていく

社会に広がる インクルーシブデザイン

今回の取材会では、SDGs（持続可能な開発目標）についても話題になりました。取材会が終わり、共同通信社の小池さんから、日常にある「デザインの知恵」を探してみようという提案があり、私はインクルーシブデザインについて調べてみました。（飯山）

SDGsの目標に「つくる責任 つかう責任」があります。平田さんは消費の速度を遅くしようと提案します。「愛されるものを作り、消費者としてそれを簡単に捨てることなく大切にすること」

臼井さんは「消費者が使い続けてくれることに責任を持つ。そのためにはどうデザインすべきかまで考えるべき」と、作り手側の責任にも触れました。

イギリス発祥の「インクルーシブデザイン」という考え方が近年注目を浴びています。企画設計の段階から障がい者や高齢者、外国人など、多様な人々をデザインプロセスの上流から巻き込むそうです。

インクルーシブデザインソリユーションズ代表取締役の井坂智博さんによれば、彼らを社会的弱者として見るのではなく、むしろリードユーザー（生活をする上で、さまざまな不便を抱えている極端ユーザー）の日常を観察することで、これまで見えていなかった社会課題を抽出し、解決策を導き出していくこ

とです。身近な具体例を紹介します。

一つ目はボックスティッシュです。普段私たちが使っているティッシュのカドは四角く尖っています。しかし、このティッシュは角が丸くなっています。なぜかと言うと、幼稚園の先生たちが園児がティッシュのカドでけがをしないようにと考えたからだそうです。

アスクルのカドが丸いティッシュ



今では当たり前になった2色のカスタネット



二つ目はカスタネットです。カスタネットと言ったら赤と青の二色で構成されているものを思い浮かべる人が多いと思いますが、しかし、昔は赤は女子用、青は男子用と分けられていたそうです。これは男女不平等だという考え方により、今のような形に変わりました。両方の色を合わせて一つにすることで、男女どちらでも使えるようになりました。なお、現在では赤い女子、青い男子という概念はなくなってきました。

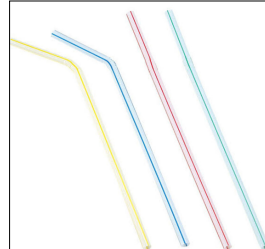
三つ目はストローです。飲み込む力が弱い人や手に障害が

ある人のために作られたそうです。

なんと、ストロー

は70年も前にインクルーシブデザインとして開発されたそうです。

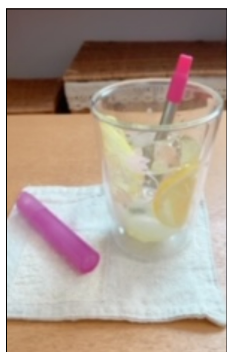
70年もの間使われ続けているストロー



ペットボトルとともに、ごみの廃棄量が問題になっているストロー。女性を中心にマイストローが広まりつつあります。私も使い捨てではないストローを探していたところ、これを見つけた。

アメリカのニュー

ジャージー州発祥の生活雑貨ブランド「ZOKU（ゾク）」の、折り畳み可能なステンレ



マイストロー生活始めませんか

ので、口の中が傷つくことはありません。また、長さも調節できとても便利です。シリコン部分は取り外しが可能です。付属のク

インクルーシブデザイン

インクルーシブ、もしくはインクルーシジョンとは、「包み込むような」「包摂的な」「共生」を意味する。

つまり「あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支えあう」（ヒューライツ大阪HPより抜粋）

シブデザインとは、高齢者や障がい者、小さな子どものように、普段は枠組みから外されてしまいがちな声から生まれたデザインのことで、できるだけ多くの人を取り込み、貢献するといった手法である。パナソニックセンター東京では、多様性（ダイバーシティ）や共生社会（インクルーシジョン）の実現のために、さまざまなイベントを行っている。

ス製の「ポケットストロー」（写真左・下）皆さんはプラスチックのストローの端つこで口の中が傷ついた経験はありませんか？ このストローなら飲み口に当たる部分がシリコン製になっているので、リーニングブラシで、手入れも簡単。繰り返し洗って使えます。ホームセンターなどで売っているので、ぜひ使ってみてください。

